

【p 38～p 41】 オサムシくん ―手塚治虫―

1 資料活用にあたって

- 本資料は、手塚治虫の人生のうち、子どもの頃の虫が大好きというところが描かれているので、事前に手塚の作品を読ませておくイメージがわかりやすい。
- 授業の展開として、38・39ページで発問構成し、40ページでは大人になってからの手塚の心情にふれたり、子どもが読んだ手塚作品の意見を出し合ったりするなどの展開が考えられる。

2 資料の読み方のポイント

- 主人公の変化を問う資料ではなく、主人公（手塚さん）を通して身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接することについて考える資料であり、手塚さんの立場で場面を捉えていく。（子どもが「手塚さん」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 39ページの「手塚さんが中学生のころにかいた絵」を描いた手塚さんになりきり、絵の中の虫に語りかけることで、動植物を愛おしむ手塚さんの心情を考えさせる。

3 読み物資料の素材について

【参考URL】

- ・ 宝塚市立手塚治虫記念館HP
<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/tezuka/>

【訪れたい場所】

- ・ 宝塚市立手塚治虫記念館
〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-65 TEL：0797-81-2970

○ 手塚治虫について

- ・ 手塚治虫は、1928年11月3日、大阪府豊中市に3人兄弟の長男として生まれた。
- ・ 開放的な家庭に育ち、漫画とアニメーションに親しみ、機智に富んだ想像力豊かな少年であった。
- ・ また昆虫をこよなく愛し、ファールを思わせる少年でもあった。自身のペンネームに「虫」という字を当てたことでも、その興味の程がわかる。
- ・ 戦争体験から生命の尊さを深く知り、医学の道を志して後年医学博士になるが、結局彼自身が一番望んだ職業を選んだ。すなわち漫画家、アニメーション作家である。手塚治虫が創作した漫画とアニメーションが、第2次世界大戦後の日本の青少年の精神形成の過程で果たした役割は計り知れない。
- ・ 手塚は、それまでの我が国の漫画の概念を変え、数々の新しい表現方法でストーリー漫画を確立し、漫画を魅力的な芸術にした。また、彼の作品は、文学や映画をはじめ、あらゆるジャンルに影響を与えた。
- ・ 同時にアニメーションにおいても、漫画におけるそれに勝るとも劣らない大きな足跡を残した。我が国初の連続TVアニメーション「鉄腕アトム」や、連続TVカラーアニメーション「ジャングル大帝」、2時間TVアニメの「バンダーブック」など、これらの作品の愛すべきキャラクター達は、TVを通じて日本中を席卷し、アニメーションを大衆に深く浸透させることになった。

○ 手塚治虫と昆虫

- ・ 1939年（11歳）友人から借りた、平山修次郎著『原色千種昆虫図譜』を見て、「オサムシ」という虫を知り、本名の治に虫をつけて「治虫」というペンネームをつける。昆虫採集を始める。
- ・ 1941年（13歳）昆虫採集に熱中し、「昆虫戦線記」「昆虫の身の上ばなし」などの昆虫を題材にしたマンガもかく。
- ・ 1943年（15歳）「原色甲蟲圖譜」第一集、第二集を発行。
- ・ 1944年（16歳）エッセイ集「昆虫つれづれ草」、「研究記録雑話 春の蝶類」を発行。
「原色増訂ヒドロ蟲類圖譜」発行。「原色櫛水母圖譜」発行。

4 展開の具体例

オサムシくん ―手塚治虫―

- ・主 題 名 ・自然のすばらしさや不思議さ D (19)
- ・資料の概要 ・手塚さんは、小学生の頃に約三千もの標本をつくるなど、子どもの頃から虫が大好きであった。小学校3年生の頃オサムシに出会った手塚さんは、自分に似ているその虫に親近感を覚えて「治虫」というペンネームに決めた。手塚さんの虫好きは中学生になっても続き、自然の不思議さ、すばらしさを感じながら精緻な虫の絵を描くのであった。
- ・ね ら い ・虫が大好きで、精緻な虫の絵を描く手塚さんを通して、自然や動植物を大切にする道徳的心情を育てる。
- ・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本P41の写真(鉄腕アトム)の写真を見ましょ う。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・こん虫図鑑を繰り返して見ている主人公の気持ちを考える。 ・オサムシに出会った時の主人公の気持ちを考える。 ・精緻な虫の絵を描いている時の主人公の気持ちを考える。 ・資料の範読を聞きながら黙読をする。	こん虫図鑑を何度も何度も見ている手塚さんは、どんなことを思ったのでしょうか。 ・きれいな虫や不思議な虫がいっぱいいるな。 ・何時間見ても飽きないな。 ・今度は、この虫を探しにいこう。 「オサムシ」に出会った手塚さんはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・顔も似ているし、やることもぼくとそっくりだ。 ・ぼくに似ている虫がいるなんて、不思議だな。 ・ペンネームは「治虫」にしよう。 P39の虫の絵をかきながら、手塚さんはどんなことに気付いていったのでしょうか。 ・一匹一匹特徴がちがっておもしろいな。 ・どの虫もほんとうにきれいな色だな。 ・こんなにいろいろな虫がいるなんて不思議だな。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

大好きな虫が載っている「こん虫図鑑」を買ってもらい、わくわくしながら見ている主人公の心に共感させる。

オサムシに出会い、自然の不思議さ、すばらしさを感じている主人公の心を考えさせる。

虫の絵を精緻に描きながら、自然に親しみ動植物を大切にしようという気持ちになっている主人公の心情の高まりをおさえる。

P40をもう一度範読し、大人になってからも手塚さんの自然愛の心情が貫かれていたことをおさえる。